

はじめに

共通教育センター長 中村和男

少子化が進む一方大学への進学率が高まる中で、大学入学者の基礎学力の低下傾向が明らかになり、多様な入試制度や入学前学習履歴を経てきた入学者の間では学力レベルや質のばらつきも顕著になっている。そこで、大学教育においても基礎学力の不足者に対して従来の補習教育のみならず、きめ細かな学力向上策を講じることへの要請が高まっているところである。

長岡技術科学大学では、通常の大学と異なり、普通高校、専門高校からの第1学年入学者のみならず、全国の高等専門学校からの多くの第3学年編入学者、および様々な国からの留学生を受け入れており、基礎学力向上へのニーズは多様なものとなっている。そこで、本学では、「学習サポーター制度」を、基礎学力に不安を持つ学部1、2、3年生に対し、先輩の大学院生が学習支援を行う制度として、平成18年度に立ち上げ、平成20年度まで試行錯誤を重ねながら、一定の実績を積み重ねてきた。そうした活動に、新たな仕組みを導入し、同制度による基礎学力向上に向けたさらなる教育力の進化を目指して、平成21年度の文部科学省による「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム（大学における教育の質保証の取組の高度化）」に応募した結果、649件の申請があった中で、96件の一つの取り組みとして、本プログラムが採択された。以来、平成23年度までの3年間、「学習サポーター制度」の進化のための新たな挑戦課題に取り組むことにより、基礎学力向上策の充実を図ってきたところである。

大学改革推進事業としての本プログラムでは、従来のサポーター制度の根幹である「特定の大学院生の先輩が、特定の少人数の学部生の後輩に対し、きめ細かな学習支援を定期的に行うこと」を基本とし、その効果をあげるために学生・サポーター・教員間のコミュニケーションの充実化・迅速化を図った「リアルタイムFD」、それらに対するその支援環境の利便性・効率性を高める「支援WEBシステム」を導入するとともに、大学院生が不特定多数の学部生の学習支援を行える「学習サポートスペース」という仕組みの導入を図るなど多面的な進化のための活動を行ってきた。さらに、これらの活動について、他の高等教育機関の基礎学力向上に関する取組みを進めている方々と問題を共有する場として「基礎学力向上に関する研究会」を開催してきたところである。

本活動報告では、3年間の取り組みの総括的な報告と成果のとりまとめを行うとともに、高等教育機関における基礎学力向上に向けた「学習サポーター制度」の今後の展望について述べることとする。

最後に、本事業へのご支援をいただいた文部科学省ならびに学内外の様々な教育関係の方々に感謝を申し上げたい。

平成24年3月